

第30回世界遺産委員会 速報

去る7月8日～16日、リトアニア共和国の首都ビリニウスで第30回世界遺産委員会が開催され、新たに18の世界遺産が登録されました(文化遺産16、自然遺産2、複合遺産0)。その結果、世界遺産リストに登録されている物件は合計830となりました(文化遺産644、自然遺産162、複合遺産24)。

また、今回の新規登録により、モーリシャス共和国が初めて世界遺産を保有することになったため、現在の世界遺産保有国数は合計138カ国となります。

さらに今回、5つの世界遺産が危機遺産リストから削除されました。高層ビル建築計画により、景観破壊が危惧されて危機遺産に登録された「ケルン大聖堂」(ドイツ連邦共和国)は、高層ビル建築計画の縮小により危機遺産リストから除外されました。そのほか、「シュッジ国立鳥類保護区」(セネガル共和国)、「イシュケル国立公園」(チュニジア共和国)、「ハンピの建造物群」(インド)、「ティパサ」(アルジェリア民主人民共和国)が危機遺産リストから削除されました。

一方、新たに2つの世界遺産が危機遺産リストに追加されました。「ドレスデン・エルベ渓谷」(ドイツ連邦共和国)は、建設予定の橋が景観を破壊すると判断されたために、世界遺産リストからの除外も視野に、危機遺産リストに登録されました。また、「Medieval Monuments in Kosovo (仮訳: コソヴォの中世建造物群)」(セルビア共和国)は2004年に「デチャニ修道院」として登録されたものが拡張されましたが、現地の政治不安によりその管理、保護が困難な状況であると判断されたために、同時に危機遺産リストにも登録されました。

次回の世界遺産委員会は、2007年6～7月、ニュージーランドのクライストチャーチで開かれる予定です。

最新の世界遺産リストはこちら(英文) <http://whc.unesco.org/en/list/>

最新の危機遺産リストはこちら(英文) <http://whc.unesco.org/en/danger/>

日本ユネスコ協会連盟のホームページでも近日中にアップする予定です。

世界遺産委員会についてはこちら <http://www.unesco.jp/contents/isan/about.html#c4>